

一般社団法人日本家政学会家族関係学部会

第41回 家族関係学セミナープログラム

2021年10月9日(土)9時30分～17時10分

オンライン開催 大会開催校： 椋山女学園大学

日程

10月9日(土)

9:30～12:10

自由報告

第1分科会

第2分科会

13:00～16:00 シンポジウム

テーマ：「家庭科は多様な家族をどう教えるか」

16:10～17:15 総会

【第41回家族関係学セミナー事務局】

椋山女学園大学 人間関係学部人間関係学科 吉田あけみ

〒470-0136 愛知県日進市竹の山三丁目 2005 番地

Phone：0561-74-1186(代表) 0561-74-1466(直通)

E-mail：ayoshida@sugiyama-u.ac.jp

自由報告

9:30～12:10

報告 17 分、質疑 5 分、報告交代等 1 分

第 1 分科会

座長:李秀眞 (弘前大学)

1. 日韓の家族介護者の介護サービス利用と介護負担感
金 貞任(東京福祉大学)
2. シングル息子の親のケアに関する質的研究
○曹明雅(忠南国立大学社会科学大学大学院) ・ 金珠賢(忠南国立大学社会科学大学)
3. 中国のポスト青年期高学歴独身女性の職業キャリア選択-北京のインタビュー調査を通して
郭麗娟(お茶の水女子大学)
4. 韓国在住若年脱北者の適応の語りにおけるアイデンティティ・ポリティクス
尹鈺喜(北海道教育大学函館校)

座長: 木脇奈智子(藤女子大学)

5. 子育ての担い手に関する国際比較-名古屋・大連・コペンハーゲンでの調査結果をもとに
○青木 加奈子 (京都ノートルダム女子大学)・宮坂 靖子(金城学院大学)・磯部 香(高知大学)・山根 真理(愛知教育大学)・鄭 陽(哈爾濱師範大学)・李東輝(大連外国語大学)
6. 保育労働と介護労働の比較研究-フィンランドのケア共通基礎資格ラヒホイタヤを手がかりに
井上清美(東京家政学院大学)
7. 国際比較の視点から見る日中女性の性別役割意識
畢舜堯(奈良女子大学大学院)

第2分科会

座長:永田晴子 (大妻女子大学)

1. 高校生が内面化するジェンダー規範と将来家庭像の関連－2001年モノグラフ調査の二次分析から
山田 桃子(京都教育大学大学院)
2. 介護福祉士養成教育における認知症高齢者の家族の理解と支援についての教育内容の検討
奥田都子(静岡県立大学短期大学部)
3. 小学校道徳教科書における家族像
表 真美(京都女子大学)・山根 有希世(京都女子大学(学生))

座長:森田美佐 (高知大学)

4. 人間の復興と在日外国人－阪神・淡路大震災を事例として
駒田笑奈(名古屋大学大学院)
5. 家族関係の悪さをどう語るか－NFRJ18より
田中慶子(慶應義塾大学)
6. 既婚女性の金融行動と意識
佐野潤子(慶應義塾大学)

シンポジウム

13:00～16:00

【テーマ】 家庭科は多様な家族をどう教えるか

コーディネーター・司会 上野 颯子（金城学院大学）
宮坂 靖子（金城学院大学）

【趣旨】

21世紀を迎え20年を経過した現在、社会・経済的条件、人口学的条件の急速な変化やグローバル化を背景に、家族の形態と関係性の多様化が進行している。昨年度の40周年記念シンポジウムにおいても、ステップファミリーに注目し、「多様な関係性を持つ家族への理解と支援」について理解を深め、意見交換を行ったことは記憶に新しい。その際、子どもたちが生活時間の多くを過ごす学校では、多様な家族的環境を、どのように理解し対応や支援を行っているのか、また、家族について扱う家庭科教育では、家族をどう教えているのかについて興味や問題意識が喚起された。そこで、本シンポジウムでは、家庭科教育に着目し、家庭科教育は、家族の多様化にどのように対応してきたのか、現在、家族をどのように教えているのかをふまえた上で、今後、さらにライセンスや家族の多様化が進展する時代にあって、家庭科教育は家族をどのように教えていったらよいのかをともに考え、家庭科教育の貢献と課題を明らかにできればと考えている。

シンポジスト

報告1 村田晋太郎氏（三重大学 准教授）

家族を教える授業で育てる資質・能力とは？ーコミュニケーションスキルに着目して

報告2 綿引 伴子氏（金沢大学 教授）

家庭科で家族を学ぶ意味を考える

報告3 久保 翔太氏（愛知県南知多町立師崎中学校 教諭）

中学生を取り巻く家族のあり方と家庭科教育

報告4 山田 真希氏（愛知県立松蔭高等学校 教諭）

自分の中の家族を問うー高校家庭科での取り組み

16:10～17:15 総会